

会場の概要

岸和田城 岸和田市岸城町 9－1



伝承では、建武新政期に楠木正成の一族、和田高家が築いたといわれています。

天正13年（1585）、羽柴秀吉は紀州根来寺討滅後、叔父小出秀政を城主とし、秀政によって城郭整備され、天守閣もこの時に築かれました。小出秀政・吉政・吉英、松平(松井)康重・康映をへて寛永17年（1640）、岡部宣勝が入城(6万石、のち5万3千石)。以後、明治維新まで岡部氏13代が岸和田藩を統治しました。

天守閣は文政10年（1827）に落雷で焼失、維新时期には櫓・門など城郭施設を自ら破壊したため、近世以前の構造物は堀と石垣以外には残存していません。

現天守閣は、昭和29年に建造された3層3階の天守です。本来は5層天守であったことが絵図などで確認されています。城跡は昭和18年に大阪府指定史跡となりました。

平成19年4月1日からは、観光施設として岸和田城ウエディングをはじめ、多聞櫓・隅櫓をギャラリーや各種イベントに使用するなど、観光振興の拠点として活用しています。

《選定理由》

岸和田市のシンボルですが、焼失したことやその原因など知らないことも多くあると思います、この機会に学んでいただくためです。